

第 3 3 期川崎市青少年問題協議会

第 5 回全体会 会議録

日 時 令和 8 年 5 月 25 日（月） 15 時 00 分から 16 時 15 分まで

会 場 川崎市役所本庁舎復元棟 2 0 1 会議室

出席者

（1）委員 1 8 名

柴田会長、菅谷委員、高戸委員、嶋田委員、後藤委員、持田委員、宮田委員、津留委員、小坂橋委員、アルベルト委員、浦山委員、松田委員、岸委員、小山委員、堀口委員、永野委員、落合委員、井上委員

（2）傍聴者

なし

（3）事務局

こども未来局青少年支援室

阿部室長、重信担当課長、山本課長補佐、筒井担当係長、植松職員

配布資料

資料 1 第 3 3 期協議題 地域全体で子どもの成長を支えるための仕組みづくり、担い手の確保について 報告書【概要】

資料 2 第 3 3 期協議題 地域全体で子どもの成長を支えるための仕組みづくり、担い手の確保について 報告書（案）

1 開会

- 新任委員の紹介
- 資料確認
- 会議公開及び会議成立についての説明
- 会長挨拶

2 議事

(1) 第33期協議題報告書（案）の内容確認について

○柴田会長

第33期青少年問題協議会は、令和6年10月にスタートし、“地域全体で子どもの成長を支えるための仕組みづくり、担い手の確保について”とテーマを設定したうえで協議を重ねてまいりました。この7月に市長への報告書の提出を予定しています。

本日の全体会が第33期の最後の会議となります。今回は、これまでの協議内容に基づいて作成した報告書案の確認を行います。今期は“子どもの居場所づくり”に焦点を当て、まずはその理念を整理し、大師こども文化センターにおける試行的な取組について情報共有を行いました。

本日は、第33期報告書案の提言内容について委員の皆様にご確認いただくとともに、御意見を伺いたいと考えています。報告書案については、第4回の全体会を受けて、専門委員及び事務局を中心に作成してまいりました。

それでは、報告書案の概要等について、事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局

資料1及び2に沿って説明

○柴田会長

ありがとうございました。御説明のとおり、第33期では居場所の活動領域のうち第1象限に設定される居場所について議論しました。事務局の説明を受けて、まずは専門委員から補足説明や御意見がございましたらお願いいたします。

○永野委員

用語の更新も含めて細かく確認いたしました。「寄り添うナナメの関係にある大人」と「ナナメの大人」という用語が出てくるため、省略するのでしたら「以下『ナナメの大人』とする」等の記載としたほうがよいと思います。難しい立ち位置であることを適切に表現するための検討の経過が伝わるとよいと思いました。また、提言や総括に含まれますが、今後の展開が重要で、川崎市独自の子どもの権利条約を大切にすることや、条例をいち早く制定したことも含め、子どもの権利の観点から子ども・若者の参画を検討することが伝わると、経緯がよりまとまると思いました。

○堀口委員

居場所づくりは“まちづくり”のひとつだと感じています。麻生区や大師こども文化セ

ンターの事例など、青少年支援室の取り組みを拝見し、「ときに支えられ、居場所でゆっくりしたい児童」も、他の場面では「誰かの役に立ったり活躍したりする児童」であるように感じました。また、ライフステージ的には、麻生区の事例は「昔、地域にお世話になったから」と、長期的な視点で地域に貢献する方もいるのが印象的でした。これらのようにライフステージ的かつ長期的な視点で居場所づくり、まちづくりに取り組んでいけるとよいと思います。その視点で、行政としては長期的にコーディネートしていただけるとよいと思います。

○柴田会長

2人の専門委員のお話のとおり、今期は、子どもにとってナナメの関係にある大人が、子どもの居場所で子どもを多面的に見ながら、伴走者として寄り添うことの意味についても、専門委員会で話し合いました。また、行政の役割を明らかにしつつも、市民の主体性を大切にしながら進める方針を確認しました。その他、御意見や御質問などございましたらお願いいたします。

○浦山委員

青少年育成の問題について、居場所の全体的なメカニズム、考え方については素晴らしいですが、具体的なメカニズムやマッピング、すなわち地域に様々な組織があり、元々取り上げるべき基本的な課題とメカニズムがあったうえで、さらにその展望があると、報告書としての現実味が強まると思いました。

○松田委員

永野委員のお話のとおり、突然「ナナメの大人」という記載があると少し分かりにくいと感じました。上下関係や横のつながり、年齢の離れた大人等との関係とは異なる、地域の身近な大人との関係であるということを、少し分かりやすく注釈等入れていただけるとよいと思いました。

○柴田会長

ありがとうございます。本日は今期最後の全体会となります。委員の皆様より、一言ずつ御感想等をお願いいたします。

○菅谷委員

私も事前に長期間の議論の経過を拝見していたため、「ナナメの関係」というのは一定程度理解ができましたが、報告書案については、最初に定義づけがあったほうが、より分かりやすいと感じました。また、平成2年から令和2年までの間で、約11万世帯の核家族が増えているという国勢調査における現実の数字等を改めて拝見すると、先を見据えて社会全体で考えていかなければならないと感じましたし、現在は高齢世帯のほうが多く、子どもがいる世帯が少ない状況ですので、今後はこの少ない世代が高齢化していく前に、早期に手を打っていかねばならないという使命も感じました。皆様の議論の積み重ねに敬意を表しながら、私も微力ながら一員として参加させていただきます。

○高戸委員

放課後の子どもの居場所について、私もアンテナ高く活動しています。学童期から思春期の子どもについて、今まで子どもの声が届きにくい側面もあった中、「ナナメの大人」というキーワードに共感しました。子ども会の加入率が低下する中で、ナナメの大人の育成に関連しますが、私が宮前区の子ども食堂を伺った際、大学生ボランティアが参加しており、子どもや地域住民と接することは大学生にとっても良い機会になっていると感じました。コーディネート機能の中で地域の大学生や子ども食堂も巻き込みながら進めていくとよいと思います。私としては、核家族化が進む中で、子どもは大人から愛情をたくさん受けていると思いますが、愛情を感じられる機会は少なくなっていると思っており、様々な機会を通じて、たくさんの愛情を子どもたちに受け取ってほしいと思っています。

○嶋田委員

私は長く学校現場にいた視点で報告書を拝見しました。表題の「地域全体で子どもの成長を支えるための仕組みづくり、担い手の確保について」は本当にそのとおりと賛同します。ただ、資料の中の“小中学生の自己肯定感、将来への希望感は学年が上がるにつれて低下する傾向にある”という点について危惧しています。子どもの様子として、放課後の活動が非常に忙しいと感じております。学校の授業や放課後の部活動の後、塾に通い、夜遅くまで活動している子どもを見ると、落ち着いて過ごす時間があるのだろうかと思います。子どもの本当の居場所はどのようなところなのか、物理的な居場所なのか、精神的な居場所なのか、改めて考えさせられました。その点でも、ナナメの大人が必要であると感じています。先日、中学生から「毎日使用する机にガタが来て、机の足に紙を挟んでいる」、「硬い椅子に長時間座っている」と聞き、子どもの希望に気づけないことがあると思いました。改めて、子どもの立場に寄り添って話を聞いてくれるナナメの大人の存在や、コーディネート機能が必要だと感じております。

○後藤委員

皆さんのお話のとおり、ナナメの大人の存在は大事だと思います。かつて私たちが子どもの頃はそのような大人が近くにいましたが、昨今の社会情勢の中で、子どもが大人への警戒心を持つ場合もある中、どのようにナナメの関係性を生み出していくか、今後の課題であると感じました。同時に、子どもの居場所づくりも大切であり、子どもが自ら選べるよう選択肢を増やして、子どもの権利条例にもあるように、子どもがありのままの姿で過ごせる居場所をつくることも行政の役割だと感じました。例えば、こども文化センターは夜遅くまで開館しておりますので、もう少し思春期の子どもの居場所として広げていく必要があると思いました。

○持田委員

資料を拝見して大変素晴らしい取組だと感じました。今後について、居場所づくりの主なターゲットである13歳から18歳の子どもに対して、このような場所が有意義であることをどのようにアピールしていくか。実際に3ページに、居場所の対象・活動領域として、

様々な居場所がある旨が分かりやすく図に描いてあります。実際に、学習支援や子ども食堂といった有効な居場所を、困っている子どもにどのようにアピールして広げていくのか、難しいですが大変な課題になると思いました。行政と民間で様々な施策を実施したとしても、子どもに参加していただけないと難しいため、まずは参加して「こんなお兄さん・お姉さんがいるんだ。お兄さん・お姉さんが今まで体験してきたんだ」と知っていただきたいです。非常に難しい仕事ですが、大変有意義な施策だと感じました。

○宮田委員

家庭裁判所は、非行や問題行動のある子どもが強制的に来るところですので、第1象限の真逆の第3象限になるかと思います。家庭裁判所に来る子どもは自己肯定感が低く、地域に居場所がない場合が多いです。さらに家族自体が地域に馴染めていないこともあります。その中で、第1象限の子どもの居場所づくりの充実が協調されていますが、自己実現や、支援・見守りにつながるということで、問題が深刻化して、我々のところに来る前に手が打てるとよいと思い、この活動に期待しております。

○津留委員

誰でもふらっと目的もなく来られる居場所というのは、拘束力の低い場所だと思います。ただ、そこにナナメの大人がおり、子どもと確かな関係性を持つというのは、とてもチャレンジングな取組であり、関心を持って見ていました。また、後藤委員の「既存の施設を活用する」というお話や、嶋田委員の「子どもの声」のお話もありましたが、子どものアドボカシーの観点からも、私も非行の専門家として、居場所自体が加害的にならず、安心できる場所を設計するような取組になることを期待しております。

○小坂橋委員

“地域全体で子どもの成長を支えるための仕組みづくり、担い手の確保”ということで、堀口委員のお話のとおり、長期的な視点では、支援された方が支援する側に回り、育った人が戻ってくるメリットについて共感しました。担い手の確保について、インセンティブの考え方も必要と思いました。例えば、社会経験のある方は、次世代育成にやりがいを感じ、次の世代にこの活動をつなげていきたい方も多いと思いますが、高校生や大学生、それから20代等の若い人たちにこの活動に参加してもらい、次の世代につなげていく期待感など、担い手の方たち自身がインセンティブを感じるやり方もあると思います。例えば、子どもを支援する居場所を支えることは、実は自分自身の居場所をつくることでもあります。家庭と学校と限られた世界に生きる高校生にとっては、もう1つの居場所をつくることにつながり、それは大人にとっても同じかもしれません。そのようなインセンティブにより、担い手を確保する視点も取り入れたらよいと思いました。

○アルベルト委員

私は9歳の頃に来日し、日本語学習にあたり様々な人に助けられて流暢な日本語を話せるようになりました。大学生の頃、NPO法人の一員やボランティアとして、私と同じ立場にある子どものために活動してきました。東京都における特別学習指導員として、私自

身が小中学校や高校に行き、私と似た境遇の子どもに会い、私の経験や思いを伝えてまいりました。ナナメの大人の活動をより広げようとしている今の取組に携わること期待しております。

○浦山委員

理念は非常に大事だと思いつつ、実現性やメカニズムについては気になるところで、ハインリッヒの法則のように、様々な子どもがおり、抱える課題の程度も分布があると考えております。全体の構造を見て、施策が実施され、子どものモデルができることで見通しや効果が広がっていくということも、中にあったほうがよいように思います。言葉の意味は分かりますが、どのように社会を変えようとしているのかというイメージや実感が少し湧きにくいのではないかと考えております。

○松田委員

ガールスカウトでは幼稚園の年長から高校生まで幅広い年代が活動しており、大学生は大人を助ける立場であるため、ナナメの関係性に当たるように思います。縦・横・斜めのかたちで今、ボーイスカウト・ガールスカウト・子ども会・海洋少年団が育成連盟の団体として活動していますが、それぞれ人数が減ってきております。持田委員のお話のとおり、よい活動場所がありますが、知られていないため、まずは告知して知っていただくことが大切だと思います。また、こども文化センターについては小学生がメインと聞いておりますが、高校生など大きくなっても、垣根が低くふらっと行ける、大人でも孤独を感じないで行けるような居場所が多いほうがよいと思います。居場所づくりにあたり、堀口委員のお話のとおり、まちづくりとの関連が重要になると考えております。

○岸委員

報告書をまとめて市長にお見せするとのことで、今回の33期の提言は理想的で素晴らしい提案ですが、皆さんのお話のとおり様々な青少年の問題があります。今回の報告について誰も反対しないと思いますが、浦山委員のお話のとおり、その次の「何をどうすればいいか」という段階になると難しいと思います。また、最終的に行政がコーディネート役となることは当然で、報告に入れなくてもよいのではないかと考えています。逆に、行政に対して、もちろん全く期待しないわけではありませんが、期待しすぎず、我々市民がつくり上げる中で行政がついてくる、あるいはバックアップしてくれるものと思っています。

○小山委員

夕方から夜の街頭補導活動や見守り活動等の中で、対象の子どもの低年齢化が見られます。ある公園で子どもを補導した際、以前であれば子どもは年齢に嘘をつくものでしたが、最近の子どもは「中学2年です」など堂々と話します。神奈川県は会長も務めていますが、川崎市は横に長く、地区ごとに特色があり、特に川崎区は駅前に繁華街があります。子どもが減ってきたとは聞きつつ、実態はどうかというのが問題です。SNSや“トー横”の過量服薬等のトラブルが多いです。SNSやオンラインゲームに課金するため、高額な闇バイトに流れてしまうなど、半分以上はSNSのトラブルです。私たちの広報啓発活動の

中で、サイバー教室等を実施して、抑止力になるように活動しています。

○落合委員

子どもにとっての家庭は本来一番安心でき、ありのままの姿を出せる場所だと思いますが、様々な家庭環境や親子関係により、家庭にも居場所がないお子さんがいると思います。ただ、同時に家庭も困っており、家庭を孤立させず、子どもの居場所を守るために地域と連携してほしいと思いますが、地域でも人間関係が希薄化し、機能しきれておりません。犯罪に巻き込まれる可能性もあり、悩みを抱える子どもを孤立させないように、行政が居場所をつくっていくことが重要だと思っています。後藤委員から「子どもたちが自ら選べるような居場所」とお話がありましたように、様々な状況の子どもに応じた居場所が必要で、自分にどこの居場所が合っているのか、しっかり決められることを大切にする必要があると思っています。学校では何を大切にしたらよいかと考えているのは、嶋田委員の「学年が上がるにつれて肯定感が低くなることを危惧している」というお話のとおり、学年が上がると勉強も難しくなり、努力が結果に結びつかず、現実の厳しさに直面して「自分は駄目なんだ」と自分を否定してしまいます。教育プランにもありますが、周囲の大人は、結果だけではなく、つまずきも含めて、子どもの頑張りの過程を認めてあげる必要があると思います。また、自己有用感も大切で、自己有用感“人のために役に立った・人に喜んでもらえた。だから自分は価値のある人間なんだ”と必ず相手がいるものです。人との関わりの中で自分が役に立っているという、自己有用感を伴う自己肯定感を育てられると、子どもの内面に変化が起きると思いますので、学校現場も含めて、集団活動、特別活動等を通して育てていきたいと思っています。

○井上委員

今回の提言では、ナナメの関係の大人・地域に期待される役割・行政に期待される役割の3層構造の重要性について言及いただいたと認識しております。居場所づくりの事業については、昨年から試行を重ねておりますが、まだまだ着手した段階ですので、今後の取組を進めるにあたり、川崎市は地域によって実情も異なり、また子どもたちのニーズも踏まえながら、関係局や地域に根差した区役所と連携を密にしながら進めてまいりたいと考えておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○柴田会長

委員の皆様、貴重な御意見をいただきありがとうございました。本日皆様からいただきました御意見を踏まえながら、第33期の報告書については、最終的な確認を私に一任させていただくということで御了解をいただければと思いますが、よろしいでしょうか。

〔異議なし〕

○柴田会長

ありがとうございます。委員の皆様から多くの意見をいただきました。様々な居場所がある中で、ありのままでいられる居場所を子どもが選べるような居場所づくりというのは、

まちづくりにもつながるということ、また、ナナメの関係性にある大人を具体的にどのように育成するべきか、若者世代の担い手にとっては、支援すること自体が自身の居場所にもなるということなど、貴重な御意見をいただきました。ありがとうございました。

今後は、6月中旬を目途に報告書を確定させまして、確定版を委員の皆様にご共有させていただきます。その後、7月中旬に市長へ報告書の提出を予定しております。

3 その他

○柴田会長

続いて、次第の3「その他」ですけれども、事務局から報告事項等がありましたらお願いいたします。

○事務局

事務局からは特にございません。

○柴田会長

それでは、今回が第33期最後の協議会となりますので、市を代表していただきまして、こども未来局長から御挨拶をお願いしたいと思います。

○井上委員

(挨拶)

○柴田会長

ありがとうございました。他に皆様から何かございますでしょうか。——特にないようでございます。それでは、本日の議事はこれで終了したいと思いますので、進行を事務局にお返しいたします。

4 閉会

○事務局

柴田会長、また委員の皆様ありがとうございました。最後に事務局より事務連絡をさせていただきます。本日の会議録については、1か月程度で共有させていただく予定です。皆様に御確認いただいた後、ホームページに公開予定としております。

報告書の確定版については、可能であれば会議録の御確認のタイミングで、併せて皆様に御確認いただく手順を進めさせていただければと思っておりますので、改めてよろしくお願いいたします。

それでは、第33期川崎市青少年問題協議会第5回全体会を閉会とさせていただきます。本日は、お忙しいところ誠にありがとうございました。